

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：太陽の子鶴見市場保育園	種別：保育所
代表者氏名：園長 天野 裕美子	定員（利用人数）： 64名
所在地：〒230-0025 横浜市鶴見区市場大和町4-5 Green Terrace 2階	
TEL：045-717-6385	ホームページ： https://www.kidslife-nursery.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員： 4名
専門職員	園長 1名 栄養士 3名
	主任 1名 有資格非常勤 3名
	保育士 9名 保育補助 1名
	看護師 1名
施設・設備の概要	(居室数) (設備等)
	5部屋：事務室・幼児フロアー・0歳児部屋・1歳児部屋・2歳児部屋 テラス・給食室・更衣室・調乳室・在庫部屋

③理念・基本方針

太陽の子保育園

保育理念

～のびのび、すくすく、にこにこ～

子どもたち一人ひとりがたくさんの“大好き”に出会えるよう、こころとからだをすこやかに育ててゆきます。

保育方針

安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認めながら生活します。

整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。

様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。

いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

・コロナ禍で保育園活動に保護者が参加する機会が制限されているので、保育園の活動や保育内容が分かりやすいように、食育や製作、普段の子どもの様子をドキュメンテーション等でお知らせしています。

・地域活動として、『おそうじ本舗』さんとコラボのお掃除プロジェクトを秋に実行予定。

・地域の方を招待してZOOM でベビーマッサージと親子ヨガを姉妹園3園合同で開催します。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月21日（契約日） ～ 2022年2月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>食育活動では食育と生活がつながり興味が深まるようにしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から各年齢に合った食育活動に取り組んでおり、野菜に触れる等の活動を毎月行い、その目的と様子を保護者にドキュメンテーションで伝えている。また、夏にはテラスで夏野菜を栽培し、秋の味覚さつまいもの栽培などによって、自分たちで育てた野菜を「食べてみよう」という気持ちを育てることを大切にしている。食育の導入として絵本や遊びを取り入れ、子どもが食に関心が持てるような活動を行っている。クッキング保育の際には、園独自の安全・衛生チェックシートにより確認をするなど安全にも配慮している。 <p>絵本を読み込んで、制作につなげることに力を入れている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児・幼児に分けて月の絵本を決め、絵本を深く読み込んで制作につなげている。年齢に合った技法によって制作し、絵本の世界を楽しめるようにするなど、絵本の読み合わせ活動をもとに、絵本を題材にした遊びの展開や表現ができるようしている。これらの活動は保護者にも配信して活動の様子を伝えている。よって、その日の園での活動を伝える親子のコミュニケーションツールとなっていることがうかがえる。子どもが自ら積極的に発言、行動できるよう環境作りにも力を入れており、保育士と子どもが自由に意見交換できる機会にもつながっている。 <p>園長は、職員育成と働きやすい職場環境づくりに努めている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、職員は園長や主任との面談を通して、見直しを行ないながら自己の年間目標を設定し業務を遂行している。職員は面談で計画や目標の見直しを行ない、また自身の目標に必要な研修を受けることで保育が充実し専門性を高めるように取り組んでいる。研修は優先的にシフトに組み込み必ず参加できるようにしており、研修後は目標に沿って評価を行い、見直しにより保育実践に活かすようしている。有休は必ず年間5日間以上取得できるようにし、さらに職員の有休希望日を聞いた後、シフトを組みワークライフバランスに配慮した取り組みを行なっている。また、エルダー面談を実施し、新卒職員は2年目職員と話し合う時間を作り、その内容を園長や主任が把握するシステムがある。園長は、職員育成と働きやすい職場環境づくりを同時に進め、園運営に努めている。 <p>◇改善を求められる点</p> <p>地域との共存共栄を推進するために地域交流を充実させることを目指している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を充実させることに取り組んでおり、ボランティアや実習生の受入、近隣の人々との連携など、園児に還元できる地域交流を充実させることを大切にしている。また、入園を希望保護者の見学時には、育児相談を受け付けるなど、園の専門性を地域社会に還元することにも取り組んできた。ただし、新型コロナ対策の一環として、約2年間地域との様々な取り組みを制限している。今年度は3園合同の地域向け子育て支援が1回しか出来なかったことを踏まえ、来年度は1回以上地域の人々と接する機会を設けることを目指している。

・行事開催については前年度の反省を活かし実施につなげるように準備している
緊急事態や休園等で行事の見直しが多くあり、保護者からの意見などは職員間で共有し、振り返りを行い改善出来るように努めている。コロナ禍においては、従来の保護者参加型行事を実施することができなかつたため、前年の反省点などを来年度にいかし実施につなげられるように準備をすすめている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受け、保護者の率直な意見や保育園に対する期待・希望を知る事が出来た。子どもが日々どのように過ごし1年を通して何が身に付いたか保護者参加で伝える事が出来る機会を設ける事が重要だと感じた。自園の強みや弱い所を第三者評価で改めて再確認することが出来たので来年度からも続ける事、改善していく事が見えてきた。コロナで外部からの訪問を避けてきたが、来年度はZOOM等を使い地域交流や他の保育園等とも交流していけるイベントを考えたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり